

SRID NEWSLETTER

No. 341 APRIL 2004 国際開発研究者協会 創設者大来佐武郎
〒102-0074 東京都千代田区九段南 1-6-17 千代田会館 5 階 FASID 内

4月号

セネガルの「招かざる客」一塵(poussière)」とその危険性— 創価大学 鈴木 宣行
「エマージング感染症」に関連して ユニコ・インターナショナル㈱ 幸田 成善
インドネシアの総選挙 国際協力機構 小森 剛

お知らせ

1. 4月のSRID懇談会

日時：4月14日(水) 18:30~20時過ぎ

講師：SRID会員 菊地 邦夫氏 Masaoka & Associate, Inc. Senior Advisor

テーマ：「ワシントン情報、イラク、17年禪、と大統領選挙」

菊地氏は、IFCに長く勤められた後、現在のポストに移られました。

今回はお忙しい滞日日程の合間を縫って、お話し下さいます。

場所：国際協力銀行、開発金融研究所内大会議室

2. 2003年度会員レポートまだ提出されていない方は至急 sridjimu@par.odn.ne.jp
に送信してください。

3. 年次総会 4月26日(月) 午後6時30分から

場所 国際開発銀行

出欠のお返事を sridjimu@par.odn.ne.jp に送信してください。

4. 会員異動 大嶋 清治 さん

UNIDO東京投資技術移転促進事務所代表

電話：03-3402-9341 e-mail: soshima@unido.or.jp

退会 山口 真一 さん

休会 萩原 孝一 さん

セネガルの「招かざる客」 —塵(poussière)」とその危険性—

創価大学 鈴木 宣行

セネガルでは、2月頃には南から湿った空気を運んでくる Alizé が吹く。しかし、乾期のため、筆者が訪れた2月19日から3月15日までの間は、雨は一滴も降らなかった。ところが、異常気象なのであろうか、例年、6～7月頃にやってくる Harmattan (サハラから吹く熱風) が3月にやってきた。この熱風が運んでくる極めて粒子の細かい塵(poussière)で、ダカールの空は黄色く覆われ、海上では2～3キロ先が見えなくなる状態になってしまった。郊外からダカール市街地に行くために、タクシーで海岸沿いを走っていると、いつもははっきりと中心部のビル群が見えるのだが、全く見えないのである。このような天候は筆者がセネガルを出国するまで続いた。

セネガルの国民、ことに子供たちにとっては、この塵が眼病を引き起こす大きな原因となっていると言われている。また、我々日本人が車のワイパーを使用するのは、降雨か降雪の時である。しかし、セネガルでは降雨時にはもちろん使用するが、Harmattan がもたらすこの「塵」を取り除くためにも使用するのである。さらに、この「塵」はセネガルの漁師たちにとっては大西洋の荒波と同様に、大変危険な存在、招かざる客として彼らもとにやってくるのである。それ故、サハラから大量の故塵が飛来し、空の色がうす茶色になった日に漁に出ることは危険極まりないものとなる。

漁師にとって、出漁の日の天候を事前にキャッチし、準備をすることは必須条件であり、天候に関する情報はその日の糧を得るためには何にもまして重要なものである。我が国では、台風、低気圧の状況などの情報を海洋気象情報によりいち早く手にすることができ、漁船には船舶無線もナビゲーション・システムもレーダーも装備されている。しかし、セネガルの漁師たちが乗る小型漁船(Pirogue)にはそのような近代的設備はない。彼らが頼みとするのは、ラジオやテレビなどの天気予報はもちろんだが、太陽、月、星などの位置と灯台の明かりであり、それらは「命の綱」と言える。それらのものが、猛烈な「塵」により全く見えなくなってしまうのである。これでは方向を正しく見極めることは至難の業であるため、彼らは常に生と死との背中合わせの中で漁をするのである。

漁師たちは以前は家族や親戚で一艘の Pirogue に乗り、漁に出かけていたが、今日では一人ずつ異なる家族の者が乗って、漁にでかけるようになってきている。これは遭難した場合を考えてのことである。以前には、Pirogue が遭難し、一家全員が死亡ということもたびたびあったそうだ。

セネガルでは、魚が豊富な、いわゆる「漁期」は例年10月頃から翌年6月頃までであり、漁師たちはこの期間にできるだけ漁獲高を上げ、収入を得ようとする。雨期になると、魚が深いほうへ移動してしまうため漁獲量が減少する—もちろん、雨期でも漁に出るのだが—ため、この時期に全

力を尽くそうとする。この漁期になると、セネガル北部のサン・ルイの漁師などはセネガル中部や南部のカザマンス沖まで漁に出かける。ただ舟が小さいため、沿岸での漁しかできない。それでも、《塵が深い》と、極めて危険な状況に陥ることになる。

3月3日、この日の「塵」の状態は非常に悪かったが、翌日の4日、この日の「塵」の状態は前日の3日を上回る最悪の状態であった。陸上でも2〜3キロ先の建物は霞んでしまい、ほとんど見えない状態であったが、海上ではそれ以上であったようだ。この4日に筆者はシェック・アンタ・ディオップ・ダカル大学横の海岸沿いのコルニッシュ・ウエスト通りをタクシーで走ったが、日頃はこの通りから見えるはずの小さな島がこの日は全く見えなかった。そして、筆者はこのタクシーの中でラジオから流れるつぎのような痛ましい Pirogue の遭難事故のニュースを聞いたのである。

それは3月3日から4日にかけての《深い塵》の中をサン・ルイの漁師たち4名を乗せ、出漁した Pirogue が方向を見失い、帰るべき港(=浜)に帰着くことができなくなり、大捜索が行われたが、発見できないまま、捜索は打ち切られたというものであった。このような事故があっても、漁師たちは危険を承知でより価値の高い魚を求めて、出漁するのである。

このニュースを聞いたとき、筆者は我が国の協力で建設された、ある漁業センターのことを思い浮かべた。それはガンビアとの国境近くのミシラという村にあり、今では一大漁業センターになっている。ここで使用されている漁船は大型で、かつ強化プラスチック製の頑丈なものであるため、沖合遠くまで漁に出かけることができ、漁獲高も向上している。

我が国のセネガルに対する ODA の三本柱(漁業、農業、教育)の一つである「漁業振興」の上で、漁船の大型化、そしてナビゲーション・システムや漁業無線などの設置といった「漁船の近代化」を早急に推進するとともに、漁師たちの安全の確保を最重点に置いた援助が我が国にとって重要、かつ緊急な課題であると痛感している。

「エマージング感染症」に関連して

ユニコ・インターナショナル(株) 幸田 成善

昨年は重症急性呼吸器症候群 (SARS)、今年は鳥インフルエンザが発生し、新しいウイルス感染症の脅威についての警鐘となっている。このように突然出現し社会に大きな影響を与える感染症は「エマージング感染症」と呼ばれている。そのうち、ウイルスによるものは、細菌のように抗生物質による治療もできず、時には致死的になることが多いためにとくに大きな問題になっている(山内一也東大名誉教授;「鳥インフルエンザ出現の背景」から抄出)。

この2月まで中国山西省太原市を調査対象地域とする「中国環境改善調査」に従事し

ていた。この調査案件では「新型感染症病院の建設」、「医療廃液の集合処理設備の建設」、「病院廃液処理設備の改善」のハードウェア型プロジェクトに加えて「院内感染対策の強化」、「廃液処理設備の運営・維持強化」というソフトウェア型プロジェクトを提言している。

3度目となった2月上旬太原市への訪問において、提言に対して中国側から積極的な賛同を得ることができた。2003年の初夏 SARS の流行時、山西省は患者数において広州・北京に次いで3番目に多く、また患者の4割は院内感染による病院関係者であった。そうした背景から「太原市における医療廃液の改善」をテーマとすることとなり「中国環境改善調査」を03年秋に開始したわけである。

医療廃液に関する日本のODAにおける調査実績、日本における研究機関・研究グループなどを調べた結果、次の事実が判明した。実施済み病院関係ODA案件では病院診療機材が主であり、医療廃液処理設備にはあまり注意が払われていない。また日本の学会において医療廃棄物には関心が持たれているものの医療廃液には光が当たっておらず、医療廃液を扱っている学会は数少ない。調査経験があり病院建設を海外で行なっている設計事務所も限られている。

日本では一般汚水・感染系廃水などが系統別に分かれそれぞれ処理されているが、中国ではそれらの廃水が一括して沈殿タンクに流され、そこで塩素など消毒剤を入れ滅菌された上で河川あるいは下水道に放流している。SARSの発生以来、医療廃液面でも中国の法規制はかなり整備されており、各医療機関が医療廃液の水質を毎日監視測定することになっている。この医療機関による毎日監視測定は無論日本でも行っておらず日本の専門家にとって大きな驚きとなっている。

一方、02年秋に太原市環境保護局が行った市内大規模総合病院59病院を対象とする医療廃液検査では、10病院が処理装置を持っておらず、17病院は処理装置があるものの水質基準が守れていない。すなわち、法制度は進んでいても病院の実態が追いついていない状況である。医療廃液の水質分析を本件調査で行ったが、医療廃液は滅菌が十分でないか、消毒剤を入れすぎている、すなわち河川・下水道処理場へ悪影響を及ぼしているかのどちらかであった。多数を占める中小規模病院では未処理のまま廃液を垂れ流しているのが現実である。中小規模病院に対する処理設備・運転人員の共有化を目的として「医療廃液の集合処理設備の建設」を提言した。二度にわたる現地調査を通じて新型感染症病院建設に対する中国側要望が明確になり、提言へと結実した。日本では事前対応型の行政の構築、感染症類型と医療体制の再整理などを骨子として1999年4月に「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」（感染症法）が施行された。特筆すべきはこの施行が伝染病予防法の制定から実に102年ぶりということである。

以上述べたハードウェアに関する提言を補強するため運営・維持の強化を目的としたソフトウェア・プロジェクトを提言した。これは中国関係者の日本研修受け入れ、専門家による太原市でのセミナーの開催、病院のマニュアル策定における専門家による助言という3つの要素から構成されている。このプロジェクト実施は日本における院内感染対策研究の第一人者の研究会の協力を得て行われることになっている。

以上の提言の実現にはまだ時間がかかることが予想されるが、「鳥インフルエンザ」出現という事態に伴い、関係者の熱意で是非早急に実現させたいと願っている。

インドネシアの総選挙

国際協力機構 小森 剛

手元に新聞紙を1枚広げていただきたい。この大きさの紙が何に使用されたか想像がつかだろうか。インドネシアでは先日(2004年4月5日)、5年に一度のビックイベントが開催された。総選挙である。この総選挙は4議会(国会、地方代表議会、州議会、市・県議会)議員を選出する世界的にも稀に見る規模のものとなった。議席は1万を超え、立候補者は何と30万人を超えている(2004年3月の発表)。さて、先ほどの質問の答えは、もう想像がついたであろう、「投票用紙」である。投票用紙と聞いたら小さな短冊を思い浮かべるのが日本人の共通認識だろう。JICAでインドネシア支援を担当して2年になるが未だインドネシアの奥の深さを感じる日々である。

何故この大きさになったのか?疑問に思う人は少なくないであろう。インドネシアの伝統的な投票用紙は政党のロゴが入っているもので、それに釘で穴を開けて使用している。前回(1999年)の総選挙では48政党が参加していたので、ロゴが縦8横6並んだA4サイズカラフルなものであった。それを聞いただけでも驚くかもしれない。想像するに、識字率の問題と比例代表制という選挙制度が上手くマッチした選挙方法だったのであろう。

今回行なわれた総選挙に参加できる政党は24政党と半減している。一方、投票用紙は格段に大きくなった。その理由は比例名簿を示さなくてはならないという規定が総選挙法で規定されたからだ。前回までは、比例で議席を獲得した後に、その中で誰が当選するか決めることができた。また、場合によっては他党の人間を投票させることもできた。そんな柔軟性(?)が認められた選挙制度であったが、当然内外から批判の的となっていて、改正される運びとなった。様式としては、政党のロゴマークの下に比例名簿が十

数名並んでいる。インドネシアの人の名前も長い上に文字も大きくないと読めない（そもそも読めるのか？という疑問はついて回るが）、すべからく新聞紙大になった。

さて今回の総選挙、選出議員の種類には4種類あると申し上げた。当然4枚の投票用紙が存在する。今まで紹介したのは国会議員用であるが、州議会議員用、県・市議会議員用も同様である。しかし、地方代表議会議員用は更にユニークである。地方代表議会は個人名の直接投票であり、各州から4名が選出されることになる。政党のロゴではなく、個人の写真に穴を開ける。選ばれるのは嬉しいが穴を開けられるのはいかななものか。候補者も心中穏やかではないのではないのか。どうせ穴を開けるのであれば憎いやつの顔に穴を開けたいものだが……。そんな心配知ってか知らずか、選挙キャンペーンポスターには「私を刺してくれ」というお触れのものが目に付く。

有権者は投票所入口で登録カードを係員に見せ、投票用紙を貰い、投票ブースで穴を開け、投票用紙を折りたたんで、それぞれの投票箱に入れる。この一連の作業が上手くいくか多くの関係者が心配をしていた。と言うのも、投票ブースは新聞紙が広げられる大きさではないので、カンニングは可能である。また、投票用紙を折りたたむ際や箱に入れる際に切れる可能性もあり、無効票が多くなる可能性もある。様々な問題点が指摘された投票方法であるが、そこはインドネシア、底力を見せつけ乗り切っている。

インドネシア中のパルプとボーキサイトを使用して行なわれている総選挙であるが、今後開票が進み議席数が明らかになると、7月の大統領選に向けた政党間の駆け引きが活発になるであろう。調査機関の発表ではゴルカル党が一步リードという値を示しているが、闘争民主党とイーブンとなる可能性もある。今後益々目が離せなくなるインドネシア選挙である。是非とも10月20日の大統領就任まで注目いただきたい。